

第5回 武蔵野市生涯学習計画（仮称）策定委員会会議要録

日 時	平成21年10月23日（金） 午後7時00分から9時00分	
会 場	武蔵野公会堂 会議室	
出席者	委員 （敬称略）	◎林大樹、○倉持伸江、小町友則、白井龍男、飛山堪子、富川昌美、 渡邊一衛、萱場和裕 （◎委員長、○副委員長）
	事務局	生涯学習スポーツ課長、武蔵野プレイス開設準備室長
	傍聴者	0名

【会議要録】

- 1 開会
- 2 議事

（1）「中間のまとめ」の決定について

- ・「中間のまとめ」案について事務局より説明。

【委員長】 「中間のまとめ」案の審議にあたり2点確認したい。まず、なぜ「中間のまとめ」を策定するのだが、本委員会では、これまで市の様々な生涯学習に関する情報の把握に努めるとともに、実際に現地視察を行い、社会教育委員との意見交換なども行ってきた。これまでの協議でとりまとめた「中間のまとめ」は、今後計画を策定する際の基本的な方向性について、パブリック・コメントの募集を通じて市民に諮るものである。策定委員会として「中間報告」を策定する趣旨をご理解いただきたい。2点目にパブリックコメント募集を通じて市民の方々からいただいたご意見は今後の審議に役立てていきたい。まずは、「武蔵野市生涯学習計画（仮称）策定の趣旨」から「武蔵野市の生涯学習をめぐる現状」までについてご意見いただきたい。

【渡邊委員】 計画の位置づけと計画期間では、PDCAのサイクルについてももう少し具体的に記述してはどうか。計画期間中の見直しだけでなく、計画策定後の実行状況を見ながら取り組んでいくことが分かるとうい。

【委員長】 一旦受け止めさせていただき、具体的な文言については、正副委員長、事務局で固めさせていただきたい。

【渡邊委員】 武蔵野市の生涯学習関連施策の経緯と現状では、五大学の話が出てきているが、5つの大学名が本文中に入るとよいと思う。

【富川委員】 これまでの経緯と現状では、吉祥寺美術館の話は出てこない。美術館の役割も大きいと思う。

【事務局】 代表的な地域の文化施設を入れていたものである。吉祥寺美術館も本文中に加えていきたい。

【渡邊委員】 武蔵野の生涯学習における課題のなかで、「町内会がない」と明記されている。町内会があった頃もあると聞いたことがある。

【萱場委員】 町内会が無かったとは言いきれないかもしれない。

【委員長】 事実関係を確認して記載することとする。次に、「武蔵野市の生涯学習がめざす

もの」の内容について、まずは基本理念に関してご意見いただきたい。最初の4行の文章はいかがか。

【飛山委員】 基本的にはよいと思うが、「成熟した」という言葉を使うのであれば、外部への発信ということもふまえて表すことができるとよいと思う。他市町村の計画の事例を見ても、(外部への発信を)自治体ごとにPRしているところもある。もし武蔵野市も先駆的な立場にいるならば、積極的にPRするとよいと思う。

【委員長】 「成熟した」と言う以上は、社会の進歩、先を行っているという意味合いも文章として必要かもしれない。

【萱場委員】 行政の立場からすると、市民の方が外部に向けて発信することについて、市としてお手伝いすることは考えられると思うが、今回は、行政計画の理念であり、そこからはみ出してしまう可能性も考えられる。

【倉持委員】 最初の4行は一文が長いと思う。前半の2行は行政が取り組むことを端的に表しているが、後半の2行は抽象的で分かりにくい。前半の文章と後半の文章は一文としてつながらないのではないかと。キャッチコピーで短い文章で表現できればよいのでは。

【委員長】 キャッチコピーについて、案をお出しいただいている委員の方から想いをうかがいたい。

【富川委員】 「生きることは学ぶことー学びを通じて見えてくる今日の自分、明日の社会」は生きることは学ぶことという生涯学習の理念を表現し、それを通じて自分や社会の将来について考えようという想いである。

「愛するこのまちをこどもたちに引き継ぐためにーともに学び、ともに育つ」は、武蔵野市民がこのまちに住んでいることを誇りに思っていること、愛していることを表したいと考えたものである。

「いつでも、だれでも、どこでも、学べる、行動できる生きがいづくり」は、生涯学習の基本的な考え方を分かりやすく表したいと考えたとともに、行動することが大切であると考えたものである。

【渡邊委員】 「つながる、つなげる、つなぎあう、むさしのの生涯学習」は、これまでもつながる、つなげる、連携するという話が多く出され、この「中間のまとめ」にも言葉が散りばめられていることから考えた。また、「むさしのの生涯学習」という言葉が入ることで、市が何に取り組むのか、同時に施策ともつながっていることが分かりやすくなるのではないかと。「つながる」は、一人ひとりが生涯学習とつながってほしいという想い、「つなげる」は、生涯学習を始めた方どうしがつながっていくこと、「つなぎあう」はいかにして学んだことを還元していくかということである。

【飛山委員】 「個々の学びを、つないでつくろう、夢のあるまち(むさしの)」は、個々の学びは、自分流でやり方がそれぞれ違うということを表したかった。「つながり」は、ネットワークについて、空間のことを含めて考え、つないでいくことを表した。「だれでもが、いつでも、どこでも、学んで、つないで、まちづくり」は、人が一番大事だと考えたものである。

【委員長】 どれもすばらしい文章だと思う。この場で検討し修練していきたい。

- 【小町委員】各委員のご意見を聞いていると、「つなげる」、「つながる」、「つくる」というキーワードが多いように思う。一つ考えたのは、「つくる つながる ひと まち ところ」というキャッチフレーズである。
- 【白井委員】基本理念の言葉のなかに、環境整備の部分と学びの機会をつくるという2つのことが示されていると思う。そのなかで、個人が学ぶこと、集団で学ぶこと、社会貢献につながる学びがあると思う。これら3つをつなげていくことも考えられるのではないか。
- 【萱場委員】「つなげる」は、行政がつなげるという形になってしまうのでそぐわないと思う。昨年度行った生涯学習市民意識調査結果では、自分自身の学習に力点が置かれ、楽しみを見出していることが実態としてあったと思う。あまり、「つなぐ」ということを強く言うのも実態から外れてしまう気もする。個人的に考える市民像は、スマートでクールな市民像である。
- 【倉持委員】前回の策定委員会資料から各自治体のキャッチフレーズの文章を見てみると様々なキャッチフレーズがある。色々と盛り込んだ内容で行くのか、特徴的な武蔵野らしさを出していくのか、考え方次第だと思う。
- 【富川委員】まちづくりは、「つながる」、「つなげる」という言葉は前面に出て来ると思うが、生涯学習のなかで前面に出るのはどうか。
- 【飛山委員】スポーツ振興に関しては、コミュニティづくりが最終目的につながっているイメージがある。生涯学習の範囲はさらに広く、すべて含めて考えてもよいと思う。
- 【倉持委員】武蔵野市は、「コミュニティ構想」が特徴ということだが、「コミュニティ」という言葉は入れないのか。
- 【渡邊委員】「つながる」という言葉は入るとよいと思う。施策のなかに「つながる」というものがいくつも散りばめられている。
- 【萱場委員】「つなぐ」を中心とするのはどうか。自己完結型の学習の人もいる。
- 【渡邊委員】生涯学習に関して、市民の方々が知らないことがたくさんあることはもったいない。「つながる」という言葉が入るとよいと思う。
- 【委員長】 「つながる」ことに関する内容と自己完結型の学習とそれぞれの内容を表現したキャッチフレーズができるとよいと思う。
- 【倉持委員】ぜひ入れたいキーワードを出し合うとよいと思う。
- 【渡邊委員】「ともに学び つなぎあう ひと・まち・心」というフレーズはどうか。
- 【白井委員】「心」より「文化」のほうが良いと思う。
- 【委員長】 現時点でのキャッチフレーズは、「ともに学び、つなぎあう ひと・まち・文化」としたいが、いかがか。(全員異議なし)
続いて「中間まとめ」案の施策体系から最後まででのご意見いただきたい。また、施策体系図の構造についても確認できるとよい。
- 【小町委員】施策体系の図にある「次世代へむけてのメッセージ」は横ではなく上に配置したほうがよいと思う。将来に向かっていくというイメージ。
- 【富川委員】「学びを支える環境整備」も三角形だと不安定、台形にするとよいと思う。また、基本目標4の「都市型市民文化の発信」について、都市型市民文化の意味がまだよく理解できない。

- 【委員長】 重点施策である「武蔵野らしい市民文化の醸成」と関連していると思う。都市型とした意味はあったかどうか。
- 【事務局】 住民の流動性が高く、町内会がないなど自治体のなかでも特徴があることと同時に、区部と市部の間にある市でもあり、スマートでクールといったイメージの市民像をあわせて都市型としている。
- 【富川委員】 「都市型」という言葉はどこまで言いきれるか。例えば、23区が使うのであればイメージはしやすいと思う。
- 【委員長】 基本目標4「都市型市民文化の発信」は、都市型より基本施策にあわせて「武蔵野らしい市民文化の発信」としたほうがよいかもわからない。
- 【小町委員】 重点施策の「生涯学習関係団体活動支援の充実」がどのようなものを想定しているのかがいたい。
- 【事務局】 市ではすでに様々な団体が生涯学習活動を行っているが、現行の支援施策をそのまま継続するとなると、特定の団体への支援が中心になるのが課題として挙げられる。団体活動の支援とともに、その活動自体が他の市民の方々の学習支援につながっていけばよいと考える。今までの支援だけでなく、それ以外の支援の手法についても触れている。
- 【委員長】 単に「充実」とするとどうか。これまでのことを継続し、拡大する充実ではなく、新しいものを活かしながら、それぞれが力を発揮していくという意味を含めた充実ということだと思う。単なる継続でないという意味が織り込まれるとよい。時間があればまた議論したい。

(2) パブリック・コメントの取り扱いについて

- ・パブリックコメントの実施概要について事務局より説明。

【飛山委員】 「中間まとめ」は何部印刷するのか。

【事務局】 300部を想定している。市民へのコメントの返し方は、ご意見に対してすぐにコメントを返していく方法と、時間をかけて委員会のなかで審議し、最後の答申に載せていくという2つの方法がある。

【委員長】 現実的に後者になると思うが、どうか。(全員異議なし)

【富川委員】 ところで、計画のタイトルの「仮称」はいつとれるのか。

【事務局】 「中間まとめ」から「仮称」を外してはどうか確認をお願いしたい。

【萱場委員】 委員会の名称としては「仮称」が残ることになる。

3 その他

(1) 社会教育委員との意見交換について

- ・11月16日(月)午後7時、地域自由大学交流センターにて開催。

(2) 次回以降の日程について

- ・次回策定委員会 11月25日(水) 午後7時 地域自由大学交流センター。
- ・12月の策定委員会は12月25日(金)に決定。会場は未定。
- ・来年1月の策定委員会は1月25日(月)に決定。会場は未定。

4 閉会